



巻頭言

「情報」発刊に当って

財団法人 いも類振興会

理事長 生天目 健 蔵

財団法人蒞類会館を、財団法人いも類振興会と、名称を変更したことを機会に、「いも類振興情報」を発行して、事業活動の一環としようという計画をたてた。

現代は、ある意味では、情報の氾濫で、むしろ情報過剰時代といわれている。しかし、社会の各分野にわたって、情報が十分に流れているかという点、これは疑問が多く、必ずしもバランスがとれているとはいえない。

いも類の社会における情報といっても、その作付面積、収穫量、価格だけの問題ではなく、その用途、二次加工以下の情報も大きく影響する。早い話が、今年のような異常気候が発生すると、それだけで、世界的な問題になってくる。

また、広く「いも類」の加工といっても、澱粉だけでも2千種類もの用途があって、生食としての食料のほかに、酒類、甘味料、医薬用、化工品等、生活物資として、欠くことのできない存在となっている。

ところが、その澱粉は、馬澱粉についてはともかくとして、その他はアメリカ産のコーンを主原料とするコーンスターチに依存している。

したがって、アメリカにおけるコーンの作柄に一喜一憂しなければならない。だから、その的確な情報はわが国の農産加工に影響するばかりでなく、その二次、三次加工製品にまで、大きな影響をもたらすのである。

それならば、国産化したらよいではないかと思うが、そう簡単に操作できないところに問題があるのである。一方、日米農作物交渉に見られるように、国際的にも、一方的に解決できるような情勢ではない。

この情報誌では、できるだけ広い範囲の対象を取り上げ、多くの問題を蒐集して、単にいも作振興に寄与するばかりでなく、関連業界の在り方も報告して、ひいては、わが国農政の根本姿勢にも貢献したいものだと考えている。